

令和 5 年度日本水産学会中国・四国支部例会
プログラム
Program



令和 5 年 12 月 16 日(土)～12 月 17 日(日)

学校法人福山大学社会連携推進センター
(広島県福山市丸之内 1 丁目 2 番 40 号)

December 16-17, 2023

プログラム

月日	行事	時間
12月16日	一般発表	13：00～15：30
	ポスター発表	15：30～17：00
12月17日	ミニシンポジウム	9：00～12：00

【口頭発表】

1. 第一会場

01

イソガニ類によるマガキ稚貝の食害防止対策

○岩本有司・水野健一郎

(広島県立総合技術研究所水産海洋技術センター)

02★

高知県沿岸域由来のスベスベマンジュウガニのテトロドトキシン量に及ぼすサイズや季節の影響

○飯島巧望¹・毛塚勇介¹・山口晴生¹・田中幸記²・行川修平²・渡邊龍一³・松嶋良次³・川津健太郎⁴・足立真佐雄¹

(1 高知大学水族環境学研究室、2 高知大学総合研究センター海洋生物研究教育施設、3 水産技術研究所水産物応用開発部安全管理グループ、4 大阪健康安全基盤研究所)

03★

沖縄県と高知県におけるナガニザ *Acanthurus nigrofuscus* の分布と摂餌生態

○土志田晴海・深田陽久・中村洋平

(高知大院農林海洋)

04★

岡山県海域における簡易なガラモ場再生手法の検討

○横山貴洋・杉野博之・山下泰司・小野博行

(岡山水研)

05★

舞根湾塩性湿地における栄養塩と植物プランクトンの季節変動

○重松裕弥¹・池田哲也¹・内藤佳奈子¹・畠山信²・横山勝英³・田中克²

(1 県広大生物資源、2 舞根森里海研、3 都立大都市環境)

06★

羽状類珪藻における導入遺伝子の高発現を許容するゲノム位置の特定

○吉良明日海・角野貴志・山口晴生・足立真佐雄

(高知大農林海洋)

07

多変量データセット構築によるスマ各種形質の評価

○斎藤大樹・Dipak Pandey・Miloš Havelka・遠藤充・近藤総一郎・大塚純希・石川豪大・後藤理恵・松原孝博

(愛媛大南水研セ)

08★

光環境(色調)がシロギスの産卵と成長へ与える影響

竹口岩根・○西村大知・有瀧真人

(福山大生命工)

09★

フグ科魚類であるキタマクラの毒化状況およびその餌生物の解明による 毒化原因生物の考察

○上野 大海¹・飯島 巧望¹・荒木 豪士¹・船木 紘¹・川津 健太郎²・山口 晴生¹・足立 真佐雄¹

(1 高知大農海、2 大安研)

2. 第二会場

01

イカナゴシンコ釜揚げを用いた「アカハラ」個体抽出の試み

○梶原直人¹・高橋正知²

(1 水産機構技術研、2 水産機構資源研)

02★

四国南西海域におけるアオブダイ *Scarus ovifrons* の摂食生態

○浅田静流・中村洋平

(高知大院農林海洋)

03★

ヒラメ滑走細菌症に対するシアノアクリレートナノ粒子の抗菌効果とその応用

○上井将貴¹・宝金実央²・大島俊一郎³

(1 高知大院農林海洋、2 高知大希望創発、3 高知大院黒潮圏)

04

近年の養殖マガキの成長に影響を及ぼす環境要因の検討

○山下泰司¹・乾 元気¹・角田成美¹・池田博明²・仲村尚人²・小野博行¹

(1 岡山水研、2 岡山水産普及)

05★

クルマエビの生産性に及ぼす機能性飼料の効果

○長代悠生¹・宝金実央²・上井将貴¹・尾形勝弥⁴・青木大輔⁴・中邨真之⁴・開
發邦宏⁴・大島俊一郎³

(1 高知大院農林海洋、2 高知大希望創発、3 高知大黒潮圏、4 株式会社ビズジーン)

06★

志度湾潮下帯における底生微細藻類の生産量

○富山瑛弘¹・井野川直己²・一見和彦²・多田邦尚²・山口一岩²

(1 香川大学大学院農学研究科、2 香川大学農学部)

07★

オニオコゼ *Inimicus japonicus* における産卵時期と卵質の関係

○森翔吾・太田健吾・有瀧真人

(福山大生命工)

08★

タカハヤを遺伝標識とした四万十川形成史の推定

○坂本浩毅・綿貫乃愛・関伸吾

(高知大学・農林海洋)

09★

食品添加用有機酸を用いるマダイの新標識

○鳥飼慧太・有瀧真人・太田健吾

(福山大生命工)

【ポスター発表】

01

ヒガンフグの生殖特性評価と人工排卵誘導技術の開発

○吉川廣幸・井野靖子・三留明葵・奥村友紀恵

(水産機構水大校)

02

低コストカメラブイの海上作動検証

○手塚尚明¹・棚田教生²

(1 水産機構技術研、2 徳島県農林水産総合技術支援センター)

03★

瀬戸内海中央部のアマモ場におけるアイゴ幼稚魚の食性

○宮脇未希斗・金子健司

(福山大生命工)

04★

瀬戸内海のアマモ場に出現するホソモエビの生活史

○玉井優希・金子健司

(福山大生命工)

05★

瀬戸内海におけるトゲワレカラとトゲワレカラモドキの流れ藻の利用形態

○前川和輝・藤田春希・信部快晟・金子健司

(福山大生命工)

06★

瀬戸内海のカラモ場と流れ藻に出現するカマキリヨコエビ属 2 種の生活史

○大橋小都恵・金子健司

(福山大生命工)

07★

瀬戸内海の流れ藻に出現するトゲワレカラとトゲワレカラモドキの生活史

○藤田春希・信部快晟・前川和輝・金子健司

(福山大生命工)

08★

衰退したガラモ場におけるシロメバルの成長と生残

○山本啓斗¹・大西瑠美奈¹・岩崎貞治¹・上村泰洋²・西嶋 渉³・富山 毅¹

(1 広大院統合生命科、2 水産機構資源研、3 広大環境安全セ)

09★

ガラモ場の衰退に伴う魚類の多様性の低下

大西瑠美奈¹・山本啓斗¹・岩崎貞治¹・上村泰洋²・西嶋 渉³・富山 毅¹

(1 広大院統合生命科、2 水産機構資源研、3 広大環境安全セ)

10

広島県沿岸東部海域における植物プランクトンと栄養塩の水平分布

松岡歩音¹・○内藤佳奈子¹・小原静夏²・小池一彦²

(1 県広大生物資源、2 広島大生物生産)

11★

瀬戸内海西部におけるヒラメ稚魚の摂餌生態と餌料環境

○畠 美沙希¹・山田徹生²・富山 毅¹

(1 広大院統合生命科、2 水産機構資源研)

12★

高知県国分川河口域における底質のマイクロプラスチックとプラスチックごみ組成

○井手 悠太郎・池島 耕

(高知大院農)

13

異なる濃度のハウレンソウ粉末を添加した魚肉糊の物性に関する研究

○谷口成紀・萩原翔・大久保誠・前田俊道

(水産機構水大校)

14★

養殖マダイの味に関する研究

○大塚淳希・松原孝博・後藤理恵・斎藤大樹
(愛媛大南水研セ)

15★

画像情報を用いたスマの生理状態把握の試み

○板橋克弥・大塚淳希・森本寛大・松原孝博・斎藤大樹・後藤理恵
(愛媛大南水研セ)

16★

環境 DNA メタバーコーディング解析により検出された広島県芦田川水系の魚類相

○石松永大・徳田 開・阪本憲司
(福山大生命工)

17★

環境 DNA メタバーコーディング解析により検出された瀬戸内海の魚類相

○若松朋花・白石海宮・阪本憲司
(福山大生命工)

18

綾羅木川に生息する十脚甲殻類に関する研究

○荒木 晶・中島嶺斗・黒郷 柁・日比野京平
(水産大学校)

19★

瀬戸内海西部海域における栄養塩および鉄の濃度分布

○村上侑里奈¹・内藤佳奈子¹・坂本節子²
(1 県広大生物資源、2 水産研究・教育機構水技研)

20★

蛍光イラストマー標識を用いるオニオコゼの食の安全に配慮した標識法の検討

○若木澄大・有瀧真人・太田健吾
(福山大生命工)

令和5年度日本水産学会中国・四国支部ミニシンポジウム

「瀬戸内海の“いま”～里海の藻場と干潟～」

日時：令和5年12月17日(日) 9:00～12:00

会場：学校法人福山大学社会連携推進センター9F プレゼンテーションルーム

(広島県福山市丸之内1丁目2番40号)

●プログラム

9:00～9:05 開会挨拶

有瀧真人(日本水産学会中国・四国支部長)

9:05～9:10 趣旨説明

阪本憲司(福山大生命工)

座長：北口博隆(福山大生命工)

9:10～9:30 「沿岸域における干潟・藻場の機能と役割」

一見和彦(香川大学)

9:30～9:50 「山口県沿岸の藻場の現状と海藻利用」

阿部真比古(水産大学校)

9:50～10:10 「瀬戸内海中西部におけるガラモ場および干潟の魚類相」

富山 毅(広島大学)

10:10～10:30 「気候変動による水温上昇が瀬戸内海の藻場や藻類養殖に与える影響」

島袋寛盛(国立研究開発法人水産研究・教育機構)

座長:太田健吾(福山大生命工)

10:30~10:50 「瀬戸内海中央部における海藻相の変化について」

山岸幸正(福山大学)

10:50~11:10 「瀬戸内海の流れ藻に出現する葉上動物群集の特徴」

金子健司(福山大学)

11:10~11:30 「瀬戸内海中央部の魚類相と集団遺伝構造」

阪本憲司(福山大学)

11:30~12:00 総合討論

【開催趣旨】

瀬戸内海は大小 700 を超える島が存在し、海岸線が長く、沿岸域には藻場や干潟が存在する。これらの自然環境とともに、人手が加わることで生物生産性が高まった「里海」の存在が、「豊饒の海」と称される瀬戸内海の生物多様性を生み出している。しかし、地球温暖化や人為的要因等によって、瀬戸内海を取り巻く環境は変化しつつある。本シンポジウムでは、過去と未来をつなぐ「いま」の瀬戸内海の現状を見つめ、過去からの変化を把握し、これからの保全対策等を検討するきっかけを創出したい。